



前代表幹事だった櫻田との醜い内紛を制し、トップになるや事務方の「粛清」に着手。専横を尽くした新浪に引導を渡せる者がいない。誰の為の、何の為の経済団体なのか。存在意義がないことを天下に晒した。(110頁)

98 社会・文化 ● 情報カプセル

100 渋谷を駄目にした鉄道会社ども——再開発は1000年に1度の「大失敗」

102 首里城火災「原因隠蔽」の6年——主犯「天下り財団」に反省せよ

104 高血圧「治療対象拡大」の奸計

■高齢者の無駄な服薬は危うい

106 釧路湿原「丹頂鶴」の物語——乱開発が迫る「命のゆりかご」

108 NHK「井上副会長」の傍若無人

■民放との協業「御破算」の身勝手

日本のサンクチュアリ ● シリーズ 613

110 経済同友会——「新浪居座り」を許した統治不全団体

60 **政権交代で「日本株」はどうなるか**
 ■むしろ「下落」が望ましい局面

62 東京メトロは上場企業に能わず——「天下り続行」半官半民企業の本性

64 **「外為法」は企業の守護神にあらず**
 ■買収対策は「自存自衛」の時代

67 連載「クローズ・アップ」大塚博行（JAC社長CEO）——出足好調「異色ファンド」の将来性

68 連載「企業研究」**三菱商事**
 ■洋上風力「全放棄」の我利我欲

72 コンビニ「再編」食われる中堅——震源地「ローソン」買収合戦の予兆

74 経済・情報カプセル

78 連載「地方金融の研究」山梨中央銀行——海なし県で「船舶融資」に本腰

82 ニデック「不正会計」はなぜ起きた——永守邦夫は経営で溜まった「膿」

84 **日本生命「清水院政」の腐臭**
 ■銀行スパイ事件の本質と真因

86 中部電力も「再エネ撤退」の暴挙——鳥取・米子市を「喰い物」にした悪辣

「スリーダイヤの名に懸けてやり抜く。中西社長の豪語は嘘だった。公共に仕える電力事業をボイと棄てる悪しき前例を作りながら、社内は「社長の英断」と誉めそやす。トップ商社の矜持や品格は何処へ。(68頁)



総裁選の短い期間でも党内外の失望を買う男が、長い国会論戦を乗り切れるはずもない。進次郎でも低支持率・少数与党政権の日々は続き、石破と変わらない。党勢回復は夢のまた夢、衰退を加速させるだけだ。(48頁)

44 政治●情報カプセル

46 ここからで「中選挙区制」に戻す時
■多党化時代「政治改革」の奥の手

48 失速の「進次郎」
■出番を誤った「選挙の顔」

52 連載「政界スキヤン」自民党「解党」へ向かう総裁選

54 新政権は「移民排斥」に傾斜する
■参政党の猿真似に走る墮落与党

56 農政改革「挫折」のシナリオ——進次郎でも米価は下がらない

●特別リポート

3 連載〈巻頭インタビュー〉吉田徹——少数派政権が「常態化」する時代

6 石破外交「負の遺産」——世界が日本を軽んじた1年

12 トランプ政権が「歴史修正」に本腰——教育や文化で「保守史観」を強化

14 フランス「極右大統領」の現実味——マクロン政権自壊の重い代償

16 ロシアの静かなる「欧州侵略」——軍事・諜報工作強化と米国の黙認

18 WORLD ●情報カプセル

22 欧州を蝕む過激な「女性嫌悪」——背景に「新興ネオナチ」への支持

24 中東戦争はさらに燃え盛る——イスラエルの「次の標的」はどこか

28 ロシア政権中枢は「大幅入れ替え」へ——病氣と腐敗が進む「世代交代」

30 インドネシア「政情不安」の末路——「有望国」の転落と経済困窮

32 インドが中国に「労働人口」で圧勝——日本企業「海外展開」の重要指標

34 日韓関係は「再悪化」の雲行き——「大陸棚協定」という特大の火種

36 米中「急接近」は本物か——騙し合いの「デール」が始まる

38 連載〈現代史の言霊〉10月の惨事——米艦船「コール」襲撃事件（2000年）

「石破は言いなりだ」。米国に舐められた末のディールは、新政権の手足を縛る。防衛族を誇りながら、インド太平洋戦略はすっかり細った。厳しさ増す国際情勢で、外務省依存による1年の外交空白は痛恨事だ。(6頁)

